（別紙様式４－１）　　（県立高等学校・中学校用）

# （　熊本県立天草高等　）学校　令和元年度（２０１９年度）学校評価表

## １ 学校教育目標

「県立高等学校における教育指導の重点」及び「人権教育取組の方向」等を基盤に据え、本校の三綱領「正大･剛健・寛厚」のもと、生きる力の育成を通して、求めて学び志を成す生徒の育成と活気溢れる学校づくりを目指し、次の５項目を目標とする。

## ２ 本年度の重点目標

（１）人権尊重の精神の涵養と基本的生活習慣の確立に努め、豊かな人間性の育成を図る。
（２）主体的に学習に取り組む態度を養い、一人一人の進路目標達成に応じた学力の向上を図る。
（３）体力の向上、心身の健康保持増進及び安全教育の充実を図る。
（４）地域の拠点校として、学校づくりに努め、地域、保護者、生徒の信頼と期待に応える。
（５）学校における働き方改革を推進する。

## ３ 自己評価総括表

| 評価項目 大項目 | 評価項目 小項目 | 評価の観点 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 成果と課題 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 学校経営 | 開かれた学校づくり | 公開授業の推進 | ・公開授業週間、および「教育の日」などを活用して、保護者や地域の方々に授業を積極的に公開する。<br>・近隣の小・中学校、県内の高校にも案内し、連携を深める。 | ・ＳＳＨ研究部・教務部が立案し、年間２回以上の公開授業等を実施する。<br>・教務部が立案し、体験入学を実施する。 | B | 【△】年間２回の公開授業を行い、保護者や地域の方々に従業参観を呼びかけたが、いずれも多くの参観者を得ることができず、所期の目標を十分に達することはかなわなかった。<br>【○】体験入学は8月1日に実施し、中学生約280名の参加があった。同日には中学校職員・保護者向け説明会も開催し、100名以上が参加された。11月26日に天草市民センターで夜間説明会を実施した。10～12月に中学生の部活動体験を実施し、およそ50名の参加があった。 |
| | | 広報活動の充実 | ・学校ＨＰの更新・充実を図る。<br>・生徒の活動の様子を、学区内中学生や地域の方々に積極的に情報発信する。<br>・中学校を訪問して、学校紹介を行う。 | ・ＳＳＨ研究部が立案し、学校ＨＰの更新頻度を高める。<br>・教務部が中心となり、学校紹介ＤＶＤを作成し、広報に用いる。<br>・アンケートを実施して､広報活動に反映させる。 | A | 【○】生徒の活動をHPにほぼ毎日掲載することができた。1日の平均アクセス数は、約1,400件であった。<br>【○】学校紹介ＤＶＤを外部委託で製作した。中学校での高校説明会には、19の中学校、合計2,200名の生徒に本校の紹介を行った。 |
| | | 学校評議員会の充実 | ・学校評議員を含めた活発な意見交換の促進。 | ・本校の取組について事前に資料を提示するとともに各種広報を随時配付し、協議のための情報提供を行う。 | B | 【○】学校評議員への資料の事前配付や説明資料に写真やグラフ等を増やし、視覚的把握がしやすい用改善した。<br>【Δ】平素からの広報等の資料提供は数回にとどまり、十分ではなかった。 |
| | | 育友会との連携 | ・育友会総会や地 | ・総務部及び各 | | 【△】育友会総会の日程 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 区別懇談会、学級懇談会の充実を図る。<br>・学校行事、諸行事への保護者の積極的な参加を図る。 | 学年が立案し学校全体で取り組む。<br>・メール配信サービスの利用と学校ホームページを活用し、積極的に学校行事への参加を促す。 | B | を変更して実施した。再度、総会への参加を増やす検討が必要である。<br>【○】メール配信を利用しての行事等への参加を呼びかけることができ、行事の参加が増えた。また各役員会による呼びかけももあり、多くの保護者の参加が実現した。 |
| | 安全管理の取組 | 不祥事防止 | ・不祥事防止に対し全職員で主体的に取り組む雰囲気を醸成する | ・職員研修を定期的に実施する。<br>・職員朝会等を通じて不祥事防止・適時リスク管理についての啓発を行う。 | B | 【○】学校徴収金の取扱をはじめ、ハラスメントや飲酒運転などの不祥事防止のための職員研修を行うなかで、職員一人一人の「ヒヤリハット」の気づきを共有して、不祥事の芽を摘む取組を行った。<br>【△】プリント類の管理が徹底できていない状況が見られた場合、すぐに職員朝礼などの機会を利用し意識喚起をした。 |
| | 教育環境の整備 | 学習環境の拡充 | ・生徒の主体的な学びを推進し、自学時間を確保する。 | ・教室での黙学と学習室での相互学習等を促して、生徒が自らの実態に合わせて学習する姿勢を育てる。<br>・３年部が保護者の監督の下で、土日祝日に学校開放を行う。 | B | 【○】２年生では、朝自学開始５分前に登校完了できている生徒が９５％以上であり、自学の重要性を理解しながら、自己の課題解決に努める生徒が増えた。<br>１年生では、特に考査前に、学習室を利用して熱心に自学に取組んでいた。定時制との教室を共有しているクラスの生徒が放課後教室を利用できないため、その生徒たちの学習環境を整える必要があった。<br>【○】３年生では、延べ78人の保護者に協力を得て、年間39日の学校開放を実施した。決まった生徒ではあるが、十分な活用ができた。 |
| | 学校改革 | 校務改革 | ・行事の精選と各分掌等の業務時間及び業務内容の見直しを行うことで、働き方改革を推進する | ・各分掌の業務内容、所要時間、人員等について現状を把握し、課題があれば改訂していく。<br>・「運動部活動の指針」に則り、部活動の休養日及び活動時間等の見直しを行う。 | B | 【△】校務に係る所要時間の把握は、各人の時間外労働については、シートを用いて把握できたが、正規の時間内を含めた業務全般に要する時間についての把握には至らなかった。<br>【○】県で統一して行っている出退勤時間の把握シートのほかに、各個人の月ごとの推移や |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 前年度比較等を示した個人票を作成・配付して、自己の勤務状況を相対的に把握できるようにした。<br>【○】運動部活動に加えて、文化系の部活動についても、部活動顧問会等で検討を行い、指針を策定し、９月より指針に則り運用を行うことにより、休息日の確保や活動時間の徹底ができた。 |
| | | 授業改革 | ・各職員が授業を改善する。<br>・授業改革のための職員研修を実施する。 | ・ＳＳＨ研究部内に「授業改革プロジェクト」を設置して、反転授業など多様な授業形態の実践提案および各種発信を行う<br>・１・２学期末に授業に関する生徒調査を行い、改善状況を把握する | B | 【△】6/12と10/23に授業改革に係る職員研修を実施した。その後の公開授業週間で研修成果を実践した。特に探究力と表現力を高める授業実践の在り方や、各教科の専門性の向上が課題研究に役立つといった教科横断的な視点を学び実践できたものの、職員全体への実践の広がりには課題が残った。<br>【○】１学期末と２学期末に全生徒を対象に授業改善アンケートを実施した。１学期の結果を受け、授業が改善され、評価も上昇した教職員が多かった。 |
| 学力向上 | 学力の充実 | 家庭学習習慣の確立 | ・毎日の流れに見通しを持たせ、課題や提出物等の管理を促す。 | ・手帳（Foresight）に取り組むべき課題や学習計画などを記入させ、個にあった学習スタイルの確立を目指す。<br>・年間２回の宅習時間調査を行い、学年ごとに対策を講じる。 | B | 【△】家庭学習時間調査は６月と10月の２回実施した。10月の宅習時間は１・２学年で６月を下回っていた。また全学年とも昨年度の同時期より学習時間が減少している。継続的な自学力の育成が課題である。<br>【○】２学年では、課題の提出状況が改善傾向にあることから、手帳の効果が出てきた。宅習時間は昨年度を下回り、今後も継続して、個に応じた課題提示をしていく。<br>１学年では、終礼で熱心に手帳に書き込む姿が見られた。<br>短期的な見通しを立てられる生徒は多いが、長期的な見通しをまだ立てることができていない。 |
| | | ３年間を見通した指 | ・シラバスを作成 | ・年度当初に各 | | 【△】年度当初にシラバ |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 導計画 | し、見通しを立てた指導を行う<br>・学年会等による職員の情報の共有及び連携。<br>・定期考査の個人成績の変動がわかる表を作成する。 | 教科でシラバスを作成して、１年または３年間の授業計画を全職員で確認する。<br>・学年会等で生徒についての情報交換を活発に行い、他の授業での様子も把握できるようにする<br>・定期考査の個人成績の変化を見ることができる表を生徒に試験ごとに記入させ、次年度の担任に引き継いでいく。 | B | スを作成し、各科目の１年間の計画・評価について周知を図ったものの、全職員による共通理解の構築にまでは至っていない。<br>【△】8月と12月に各学年で学力検討会を行った。７月、11月の模試等の成績状況を受け、学習内容の定着度を確認し、授業の進捗状況の調整や指導法について検討した。学習状況の把握や多様な学力等の状況への対応策の検討については課題が残る。<br>【○】支援を必要とする生徒について共通理解を図るための「生徒理解研修」を実施した。<br>【○】生徒理解研修以外でも、気になることがあれば適宜協議をしながら、生徒への支援体制を築いた。学年会では、常に活発な意見が交わされ、全体で生徒の状況を共有することができた。今年度は、成績不良の生徒に話題が集中したので、次年度に向けて難関大志望者への指導へも力を入る必要がある。 |
| | | 習熟度別学習の実施 | ・それぞれの学習到達度に応じた学習をする。 | ・国語・数学・英語で、学習到達度に応じた展開授業を行い、定期的に到達度を確認し、クラス替えを行う。 | A | 【○】習熟度別にクラスを展開している教科では、定期考査・模試等の結果を受け、定期的にクラスを再編成しており、効果的な授業が展開できている。 |
| | 教員の指導力の向上 | 学習指導法等の工夫・改善 | ・教科で年間２回以上の研究授業を行う（教務）<br>・教材研究の質の向上を図る。<br>・作問力の向上を図る。<br>・模試分析力の向上を図る。 | ・各教科で短期・中期・長期的なテーマを掲げ授業に臨む（教務）<br>・生徒には、具体的にどう努力すべきかを明確に提示する。<br>・定期的に、教科会で検討する。<br>・九州大学、熊本大学、熊本県立大などの入試問題分析を５月までに行い、生徒へフィードバックする。<br>・模試データリ | B | 【△】平成31年度入試については、入試問題分析とフィードバックを徹底することができなかった。令和2年度入試については、実施に向けて準備を整えている。地域進学重点校として入試問題分析は重きを置かなければならない。<br>【○】今年から各教科会における模試分析を実施した。教科指導上の課題とその改善策の議論を活性化することができた。<br>【○】先進校視察を２件と予備校等研修を４件実施し、情報を各部署 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | リース３日以内に全職員に結果を公開し模試分析シートをもとに教科会で改善策を検討する。<br>・先進校視察や予備校研修を実施する。 | | ・教科で共有し、改善へつなげることができた。 |
| キャリア教育（進路指導） | ３か年の一貫した指導のもとでの進路目標の達成 | 第一志望現役合格の達成 | ・難関大学合格５名以上を含め、現役による国公立大学７５名以上を目指す（現３年生の人数により目標値を修正）。<br>・１、２年生は国・数・英で模擬試験において偏差値５２以上を目指す。<br>・３年生の全科目で模擬試験において平均偏差値５０以上を目指す。<br>・センター試験の得点が全科目全国平均点以上を目指す。 | ・進路検討会を年間に３年生５回、２年生２回、１年生１回以上行う<br>・確認考査、単元テストなどの小テストを行い、受験基礎力を養成する。<br>・二者面談や教科面談を行う<br>・小論文対策の早期化と継続を図る。<br>・推薦、ＡＯ入試対策として専門分野の強化を図る。 | B | 【○】進路検討会は計画どおりに実施し、職員間で情報の共有を図ることができた。<br>【△】各教科で各種テストを実施されていたものの、受験基礎力への到達には十分でなかったように思われる。本校生が到達すべき学習態度等について、職員間で共有するためにルーブリック評価等の導入について考える必要がある。<br>【△】担任及び教科担当者による面談は随時行われた。ただし、日課の関係で十分な時間が確保されたとは言い難い。<br>【△】小論文講演会や授業での指導を行うことができた。質を向上させるために低学年次から社会へ視野の拡張が必要である。<br>【△】推薦入試・ＡＯ入試に向けた学問研究等が十分ではなかった。低学年次からの進路学習の充実が不可欠である。 |
| | | 総合的な探究の時間の活用 | ・自己の進路についての意識を高めさせる。<br>・知の注入とともに自分の考えを表現させる。<br>・将来に対する視野を広げ、考えを深化させる。 | ・３年間の計画に基づき、面談等で生徒の状況を確認しながら実施する。<br>・大学比較研究や論文読解、課題レポート作成等を実施する。<br>・相互発表により、自身の考えを伝えるだけでなく、他者の考えも学ぶ機会とする<br>・希望者に対して、インターンシップ等を実施する。 | A | 【○】３年間を見通した計画に従って、概ね順調に進んでいる。<br>【○】１年生及び２・３年ASクラスは、SSH学校設定科目「天草サイエンス」に代替し、地域をテーマとする課題研究を実施した。<br>【○】２年理系と２年文系は、大学比較研究や課題レポート作成等を行い自身の将来について深く探究する機会となった。<br>【○】相互評価票を用いて、他者を評価しながら自身の取り組みも省みることができた。<br>【○】２年生では、進路 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | に係る内容についての学習に生徒が意欲的に取り組むことができるように、学年会で内容についてしっかりと話し合いをしながら方向性を見定めた。<br>【〇】１年生では、各系統での課題研究発表では、他グループの発表後に多くの質問が出るなど、興味関心をもって相互評価ができていた。しかし、発表の準備段階でPCが不足し、順番待ちで手もち無沙汰になってしまう生徒がいることもあった。 |
| | 多様化する生徒の個々の進路目標への対応 | 進路意識の高揚・啓発 | ・各学年、年間２０回程度の進路情報を提供する<br>・各学年の進路講演会、大学出張講義、予備校や大学によるガイダンスを実施する<br>・定期的に学年通信や進路通信を発行し、進路情報を提供する。 | ・進路の手引き『求學志成』と、「進路ニュース」を作成する。<br>・学年ごとに時期、段階とニーズにあった内容で講演会を実施する。<br><br>・受験形態を熟知し、生徒の個性に合った進学指導を実施する。<br>・生徒に進路選択の幅が広がるような内容を提供するとともに、保護者にもわかりやすく情報提供できるようにする。 | B | 【△】『求學志成』は作成及び配布することができた。活用する時間の確保を考える必要がある。学年ごとに進路情報を随時提供することができた。<br>【〇】進路講演会や大学による出張講義等を計画的に実施することができた。<br>【△】朝自学や課外授業の実施について過渡期であるとの認識に立って、本校生の実態に合った実施方法について議論を深め、具体策を検討している段階である。<br>【△】進路希望を明確にさせる指導や、多様化している進路希望に即した指導方法について再検討を進めているところである。<br>【△】３年生では、進路講演会や保護者学習会による受験システムの説明を実施したが、約半数の保護者の参加に留まった。<br>【△】１年では、学年通信や講演などを通じ、生徒の意識を向上させたり、保護者への情報提供を図ったが、思ったような反応を得ることはできなかった。<br>【△】進路指導についてのロングホームルームとして利用できる時間が不足していた。ポートフォリオの入力を徹底するための時間の確保の必要性がある。 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 進路希望に応じた個人指導 | ・担任による二者面談を年間６回以上実施する。<br>・教師が教科指導力を高いレベルで養い、いかなる大学進学に対しても積極的指導を実践する。<br>・各学期に２回以上の進路面談時間を設ける。<br>・家庭訪問や三者面談を活用し、保護者の意向を確認する。 | ・各学期に２回以上は担任が二者面談を実施する。<br>・進路指導部が大学や入試などの情報を積極的に提供する。<br>・個人の目標や特性を把握して、進路選択の幅を広げていく。<br>・夏季休業中の家庭訪問や三者面談を活用し、保護者の意向も確認しながら、進路目標を設定していく。 | B | 【○】１．２年生においては、定期的な面談をとおして生徒の進路希望を引き出し、学習意欲に繋げることができた。<br>【△】３年生では、担任と副担任が協力し、面談を行った。しかし、自らの在り方生き方に関する３年間を見通した学習が十分でない生徒もおり、指導上の課題が残った。<br>【○】上級学校や入試に関するトピック等の情報を随時提供することができた。 |
| | 高大接続改革への対応 | 大学入学共通テスト等入試制度改革への対応 | ・大学入学共通テスト等入試に対応するための計画を立案する。<br>・自ら課題を求めて、学ぶ生徒を育成する。 | ・大学入学共通テスト対策委員会で新入試制度における本校の体制を整備する<br>・英語外部資格検定試験の活用および受検計画の立案を行う。<br>・ポートフォリオを積極的に運用する。<br>・総合型・学校推薦型選抜の研究と指導計画の立案を行う。<br>・１、２年生対象に朝自学を実施する。 | B | 【△】新入試に関する対応は確実に対応することができた。授業の改善を図ることが課題である。<br>【△】ポートフォリオへの対応は昨年から引き続き円滑に行うことができた。生徒によって活用の頻度が異なるため、時期に応じて指導を行った。<br>【○】総合型・学校推薦型選抜に向けた進路検討会での情報の共有や校外活動等の促進などを行うことができた。<br>【△】計画通りに実施することができたが、実施方法等の改善が必要である。現在検討を進めている。 |
| 生徒指導 | 自律心の育成 | 生徒会活動の充実 | ・年３回以上の一斉委員会を開催する。<br>・毎月、生徒朝会を実施する。 | ・生徒自ら運営に携わる。<br>・生徒指導部職員が指導助言を行う。<br>・一斉委員会の内容を、生徒朝礼で取り上げ、全校生徒への委員会活動の周知を図る。 | A | 【○】体育大会や文化祭など特に大きな学校行事の運営を生徒会執行部が中心となり意欲的に取り組んだ。<br>【○】生徒一斉委員会→生徒朝礼の流れが定着した。各委員会から報告の時間を設定し、効果的であった。３学期は、校内での挨拶の活性化を図る取組と生徒朝礼において発表を行った。 |
| | | 部活動の充実 | ・活動時間短縮に伴う効率化を図る<br>・顧問割当の再編を行う。 | ・部活動時間が短縮されたことで、各部活動で活動内容を見直し、効果的な練習に | | 【○】週休２日の試行もあり、平日の活動時間は削減された。各部活動での練習内容等の工夫がなされている。県内上位進出や、九州大 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 取り組む<br>・大会において引率顧問が不足する場合、担当部活動の枠を超えて補う。 | B | 会及び全国大会に出場する部活動もあった。<br>【△】顧問が大会引率できない場合に、他の職員で引率を代行することに苦労した。競技によっては複雑な日程での開催があり、サポート体制の確立が必要である。 |
| | | ボランティア精神の育成 | ・生徒企画のボランティアを実施する。 | ・外部依頼のボランティアに限らず、生徒会や部活動企画の奉仕活動を積極的に実施する。 | B | 【△】ボランティア委員会がペットボトルキャップの回収による途上国支援、プランターによる校内美化活動などを実施した。集まったキャップの量は、予想を下回ったが、一定の成果は得られた。外部からのボランティア活動の依頼に対して、生徒への周知、参加状況も良好であり、意識の高まりが感じられた。 |
| | 基本的生活習慣の確立 | 交通モラルとマナーの向上 | ・年３回以上の登校指導の実施<br>・原付通学生集会を毎月実施する<br>・交通違反０を目指す。 | ・学期毎に全職員参加の登校指導を行う<br>・原付通学生の集会を実施して、具体的な事故・違反事例を取り上げて、交通規範の高揚に努める。 | B | 【△】全校職員による登校指導は、実施できなかった。年間を通して生徒指導部と各学年で連携し、早朝より５分前着席に取り組み、概ね良好であった。<br>【〇】月１回の原付通学生集会をほぼ実施し、交通法規の確認や原付の安全点検などを行った。違反件数は１件であったが、特に１学期に原付バイクの自損事故が多発した。 |
| | | 規範意識の高揚 | ・年５回以上の頭髪服装検査を実施し、違反０を目指す<br><br>・新たなあいさつ推進運動の実施 | ・授業、掃除といった日常生活での場面を指導の場と捉え、全職員でルール遵守の意義を生徒に伝える<br>・生徒会執行部を中心に、あいさつの意識高揚を目的とした運動を企画・実施する | A | 【〇】頭髪服装検査は、年間８回実施した。各学年で基準の周知や、指導方法の再確認を行い、全職員で共通認識のもと指導した。違反者については、学年指導を行った。<br>【〇】３学期に生徒会執行部が中心となって、挨拶に関する意識調査と報告、結果に対する取組を行った。 |
| 人権教育の推進 | 命を大切にする心を育む指導 | いじめの根絶 | ・いじめは絶対に許されないことであることを生徒に理解させる<br>・いじめ根絶に向けて、実態把握と迅速な対応を行う。 | ・年３回以上のいじめに関するアンケートを実施するとともに、いじめ通報アプリを活用し、いじめの早期発 | | 【〇】各学期１回のいじめに関するアンケート（心のアンケートを含む）を実施した。いじめを受けた・見たと回答をした生徒に対しては、学年・担任と連携し状況の把握に努め、 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 見に努める。<br>・情報モラル教育を行い、ＳＮＳ等への書き込みにおけるモラル向上を図る。<br>・全職員で生徒情報の共有をし、連携を密にする。 | B | 迅速な対応と情報共有を行った。さらに、生徒指導部会やいじめ防止対策委員会で情報の共有を行った。<br>【△】情報モラル講演会の実施時期を５月に行った。全校集会、長期休業時の生活心得、修学旅行前など頻繁にＳＮＳの使用について注意を促した。しかしながら、書き込み等がなされており、今後も全職員や各部署・教科において、指導の工夫や強化が必要である。 |
| | | 命を大切にする心の育成 | ・職員及び生徒に「命を大切にする心」を育むことの重要性について理解させる | ・「命を大切にする心」について考えさせる全校集会・ＬＨＲを企画・実施する。 | B | 【○】ロングホームルームでは、３年生が年１回、２年生が年２回、１年生が年１回の人権教育を行い、様々な人権について学習した。グループワークによって、実際の場面での行動について話し合うことができた。また、多様な性についての講演会により、現状について知ることができた。 |
| | | 教育相談の充実 | ・年間３回の生徒理解研修、生徒支援委員会を実施する。 | ・現状を分析して担任に指導助言を行う。 | A | 【○】生徒理解研修は学期ごとに１回、年間合計３回実施した。<br>【○】生徒の状況把握や協議を行うことができた。<br>【○】カウンセリングの時数が年間８４時間と十分に確保され、生徒や保護者及び教職員ともに充実した相談を行うことができた。<br>【○】学校生活への不安感から心身の不良を起こしやすい生徒が不安感を軽減でき、カウンセリング効果が得られた。 |
| | 豊かな人間性の育成 | 読書の推進 | ・貸出数の１人当たり14冊以上を目指す<br>・「朝の読書」を徹底させる<br>・利用率の増加（貸出数０冊の生徒を減らす）を図る。 | ・良書の選定と「図書館便り」の充実及び年間１０回以上の発行。<br>・全職員、全生徒で一斉に行う<br>・多彩な分野の蔵書を揃え、生徒の情操や知的好奇心に訴えかける。 | B | 【△】生徒貸出冊数が減少している。昨年度の日課変更で生徒の読書習慣がなくなってきている。<br>【○】職員の推薦・リクエストの図書を揃え、教職員による読書活動推進に繋げている。職員室文庫も20日周期で更新している。 |
| | | 人生観・職業観の育成 | ・人生観・職業観を養う講演会や人権教育等のＬＨＲの講義を充 | ・同窓会、育友会とも連携して、地域の方方や同窓生を | | 【○】生き方や在り方に関する講演会やＬＨＲの実施で、将来の自分 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実させる。 | 講師に招く。<br>・ＨＲでの活動を通じ、日常の指導の中で生き方や在り方について考える機会を増やす。 | Ｂ | について考える良い機会になった。また、今年度退職の同窓職員に講演依頼中である。<br>【△】人権教育のロングホームルームを充実させるため、学年会で協議し、講義を受けるだけでなく、生徒が主体的に協議できる内容へと改善を試みた。 |
| | | 道徳教育の推進 | ・学校の教育目標に基づき教育活動の全領域において道徳教育を推進する。 | ・「人間としての在り方生き方」に関する講演会を開催する。 | Ｂ | 【○】人権教育講演会を通じて、自己の生き方を振り返る契機とすることができた。<br>【△】ＳＳＨの授業や講演会をはじめ、インターンシップやボランティアへの参加などにより、地域の現状や他者のために労働し貢献することの意義を知る契機とし、人生観・職業観の育成を図った。 |
| 健康安全教育の推進 | 健康・安全教育の推進と環境整備の推進 | 健康教育の充実 | ・治療勧告生徒の受診率を向上させる。<br><br>・生徒の健康状態に応じた個別指導を充実させる。 | ・長期休業前や定期考査前を目処に治療勧告書を渡し、治療の必要性について呼びかける。メール配信を利用する。<br>・健康観察を徹底させ、健康状態を把握した上で個別の保健指導につなげる。 | Ｂ | 【△】う歯・視力の受診率向上を目指し、学年との連携や面談の結果では、2/05現在で視力は61.1%(昨年度12月64.6%)、う歯は31.8%(昨年度12月51.4%)３月に再勧告を行う。<br>【○】健康観察および担任との情報交換をとおして、生徒の様子を把握でき、感染症の対応や、保健指導に役立てることができた。 |
| | | 環境美化の徹底 | ・時間一杯清掃して、校内美化に努める。<br><br>・ごみの分別を習慣化する。<br><br>・学校版環境ＩＳＯ活動（エコスクール）に取り組む。 | ・年間計画を立てて計画的に実施する。<br>・全生徒が掃除にあたり、担当職員が率先垂範して指導にあたる。<br>・分別のスリム化や分別しやすい表示等の工夫により、分別の習慣化を図る。<br>・保健部会、生徒生活委員会を中心に全職員・生徒で取り組む。 | Ａ | 【○】掃除時間、細やかなところまで清掃をしていた。廊下のごみ箱のごみの分別を今後徹底していくことが課題である。<br>【○】学期ごとに美化コンクールを実施した。評価項目を増やすことで、クラスで競い合って、差がつきやすくすることでレベルが年々上がっており意識が向上したことがうかがえる。<br>【○】衛生委員会からの呼びかけを行うことに変更した。水道使用量は５月にプールの水の出しっ放しがあり前年度比127%、電気使用量は前年度比92%であった、５月のプールの件の反省をもとに節水節 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 電の意識は高まった。 |
| | | 整備の徹底 | ・毎学期、安全点検を行う。 | ・掃除用具の点検を定期的に行い、迅速に改善する。<br>・安全点検を受けて、危険箇所の改善を迅速に行う。 | A | 【○】定期的に安全点検を実施することができた。危険個所・修繕箇所については事務部へ速やかに報告し、教育活動における生徒の安全確保に努めた。事務部でも迅速に対応し、安全確保が行われた。 |
| いじめの防止等 | 指導体制の組織的整備 | 組織の実効的活用 | ・縦（管理職、他学年）と横（学年団）のつながりを密接にした組織づくりをする。<br>・管理職を含む複数の教職員、専門的な知識を有する臨床心理士等による「いじめ対策拡大委員会」を実効的に活用する。 | ・素早い情報共有と、迅速な対応を心がけて行動する。また、保護者にも連絡をとり、対応の説明をする。<br>・生徒指導部会やアンケートで得られた情報を共有し、生徒への事実確認、保護者との連携、対応方針の決定等を組織的に行う。<br>・年間指導計画の作成・実行・検証・修正の中核的役割を果たす。 | A | 【○】毎週行われる学年会や生徒指導部会の中で、欠席が多いなどの気になる生徒の情報共有を行い、連携して迅速な対応を行った。また、いじめが疑われる事案に関しては、該当生徒との面談や保護者との情報共有など、早期解決を目指し、状況把握や問題解決にあたっている。<br>【○】年３回のいじめ防止対策委員会と拡大いじめ防止対策委員会を開催し、外部委員から専門的視野において学校の取組や対応を見ていただき、評価及び指導助言を受けることができた。 |
| | 未然防止及び早期発見のための取組みの強化 | いじめの防止 | ・互いのよさや個性が大切にされ一人ひとりが尊重される人間関係や学校風土を構築する。 | ・各種の講話や講習会、ＬＨＲを有効に活用し一人ひとりの心に迫る<br>・「心のきずなを深める月間」により、生徒会を中心とした取組を通して、生徒一人ひとりのいじめ防止の意識を高める。<br>・定期的にクラスや学年で雰囲気づくりに関する声掛けや、標語などの掲示をしていく。 | B | 【○】心のきずなを深める月間で、全校生徒に標語を募集し、生徒一人一人がいじめ防止や相手を思いやる言動について考える機会を設け、理解を深めた。各学年から選ばれた標語を校内に掲示した。<br>【△】定期的に面談を行い、個々の生徒の状況把握を図り、人間関係や生活における悩みなどの生徒理解に努め、問題の解決に向けて継続して取り組んだ。<br>【○】思いやりやマナーに関して、学年集会だけでなく、各クラスでも担任を中心に年間を通して伝え続けることができた。 |
| | | いじめの早期発見 | ・「いじめはどの学校にも起こりうる」という認識に基づき積極的に対応する。 | ・学期に１度のアンケートや個人面談などを通じて、生徒の異変やサインについて積極的な実態把握に努める | | 【○】毎週行われる学年会や生徒指導部会の中で欠席が多いなどの気になる生徒の情報共有を行い、連携して迅速な対応を行った。またいじめに関するアンケ |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | ・いじめに対する意識を高く持ち情報共有を行う | ・いじめ通報アプリも活用して、いじめの早期発見に努める。<br>・学年会などの情報を保健部会・生徒指導部会で共有する。 | A | ートを学期ごとに実施し、生徒の心の状態の把握に努めた。<br>【○】いじめ通報アプリの活用について説明して、利用促進といじめの早期発見に努めるよう心掛けた。 |
| | | いじめへの対応 | ・解決に向けて組織的に迅速な対応を行う。<br>・組織的に対応して早期解決をする。 | ・「対応マニュアル」に従い情報収集と記録確認を行って、組織的に迅速に解決する。<br>・情報収集と対応の共通認識を図って、正確に記録を残す。 | A | 【○】いじめが疑われる事案に関しては、該当生徒との面談をとおして、早急に詳細な状況把握に努め、保護者への連絡と連携をとりながら、改善に向けて継続的に取り組んだ。学期毎の拡大いじめ防止対策委員会にて、ＳＳＷや学校評議委員の助言も参考にしながら、最善の対応に取り組んだ。 |
| 地域連携（ｺﾐｭﾆﾃｨ･ｽｸｰﾙなど） | 防災型コミュニティ・スクール | 地域連携の組織づくり | ・地域や自治体等との連携した防災対策の基盤を作り、活動へつなげる。<br>・年２回の合同会議を実施する。 | ・地域や自治体とともに近隣学校とも連携や情報共有を行う<br>・作成した対応マニュアルの改訂（チェック）を行い、より実効性の高いものにする。 | B | 【△】年間２回の防災避難訓練（火災と地震津波）学校運営協議会も２回開催して、避難所運営マニュアルの検討を行った。合同協議会も開催でき連携と情報共有を図った。 |
| | 高校間の連携 | 地域への情報発信 | ・天草地域の高校の取組を地域住民に周知し、魅力を伝える。 | ・天草地区の高校が中学生、保護者、教職員に魅力を発信する機会を企画し、実施する。 | B | 【○】ＳＳＨ研究成果発表会やグローバル・リンク・シンガポールでの口頭発表等、天草ケーブルテレビと共同して番組制作を行い、地域に向け発信をした。地域の高校の魅力創造発信事業として、市民センターを使用し、地域の高校と共同で、イベントを開催したが、期待した来場者が得られなかった。。<br>。 |

| ４　学校関係者評価 |
| --- |
| ・今年度の３年生の進路の傾向として公務員の志望が増え、合格実績も上がっていることがわかった。中学生の保護者の中にも公務員志望の方が多く、学校の取組を地域の発信していけば志願者も増加することが期待される。<br>・ＳＳＨの取組では、地元天草をテーマとした研究活動が行われており、地元に根ざした活動が素晴らしい。また、科学部が世界大会出場を果たすなど、研究指定校として着実に成果を残している。地元の子どもを対象とした「サイエンスアカデミー」に参加したが、小学校低学年も参加可能で、参加した児童は大変喜んでいたが、案内のプリントが低学年の児童を意識したものではなかったので工夫が必要であった。<br>・生徒の家庭学習時間の確保に関して、部活動をしている生徒にとっては時間の確保が特に難しいのではないか。中学校では、天草高校と同様に自学の時間を設けて取り組み、家庭学習の計画も立てさせているがマンネリ化が見られる。生徒に合った課題を提供すること、生徒任せにするばかりでなく、家庭との協力も重要と考える。<br>・読書により育まれる力は大きく、学校図書の貸し出し数が減少傾向になっていたことが気になっていたが、学級文庫の設置や図書を購入して読書している生徒も増えていることを知り安心した。<br>・学校のホームページでは、生徒の様子を積極的に発信してある。最近「いいね」のボタンが追加され、ホームページを閲覧した人が参加できる形になっていて素晴らしい。 |

| ５　総合評価 |
| --- |
| ・ＳＳＨの研究指定事業への取組も３年となり研究開発も進み、科学部の「グローバル・リンク・シンガポール」への参加や、学校設定科目「天草サイエンスⅠ」の探究活動に基づいた研究発表が「高校生ビジネスグランプリ」において表彰されるなど多くの実績を残すことができており、研究指定事業の目標に向かって少しずつ前進ができているといえる。<br>・学校評価アンケートの結果では、生徒の悩み等への教職員の対応に関する評価が経年比較で上昇した。面談週間等の時間の確保だけでなく、関係機関との連携を含めた組織的な対応や教職員の共通理解の促進などが影響したものと推測される。<br>・学校ホームページの記事の更新頻度が昨年よりさらに多くなり、新鮮な情報の提供を行った。その結果、学校ホームページの閲覧数が一日平均約１５００件となり、多い日には3000件を超えるアクセスがあるなど、保護者や地域に対する本校の教育活動の周知に大いに役立っている。 |

| ６　次年度への課題・改善方策 |
| --- |
| ・生徒の家庭学習時間調査や生徒の学校評価アンケートの結果では、家庭学習の時間の確保が目標値に到達していない。予習・授業・復習という学習のサイクルの確立、主体的な学習態度の育成、教師の授業力向上等をテーマとする改革プロジェクトの組織を立ち上げ、校務改革を推進する。<br>・今春の本校入学希望者が募集定員を下回る結果となった。本校の教育活動の様子についての周知活動の中に、地元の中学生や保護者及び住民が本校に求めるものを踏まえた、魅力発信のコンテンツを組み入れ、広報の方法等の工夫を図る。<br>・国公立大学の現役合格者数が例年に比較し減少した。３年間を通じた進路指導計画（現行の「雛鵬プラン」）の見直しを行うとともに、生徒の視野を広げること、学力の定着の度合いを的確に把握すること、生徒に「真に」寄り添った進路指導の在り方について教職員の共通理解を図ることなどについて職員研修を行い、教職員の一人一人のスキルアップと組織力の強化を図る。<br>・教職員の時間外勤務について、全体の平均値は減少傾向は見られるものの、依然として多い状況にある。業務マニュアルの再検討を進め、分かりやすく効率的な業務遂行ができるようにする。 |